



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/28 (月)	+ 400	+ 200	+ 600	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲100 国債補完供給 + 28,800		日：景気一致指数(6月) 景気先行CI指数(6月)
8/29 (火)	+ 1,000	+ 1,000	+ 2,000				日：完全失業率(7月) 有効求人倍率(7月) 米：消費者信頼感指数(8月)
8/30 (水)	+ 1,000	トン	+ 1,000		共通担保 ▲ 7,300		米：GDP(2Q) 欧：1-0圏消費者信頼感指数(8月) 1-0圏景況感指数(8月)
8/31 (木)	▲ 1,000	▲ 200	▲ 1,200				日：鉱工業生産(7月) 小売売上高(7月) 欧：1-0圏CPI(8月)
9/1 (金)	▲ 1,000	▲ 34,000	▲ 35,000	国債発行・償還 (2年)			米：雇用統計(8月) ISM製造業景況指数(8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初21日、544兆5,600億円から始まった。その後は24日の国債買入オペや25日の各種財政資金の払い等により、546兆9,200億円まで増加し、越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初21日、前営業日比▲0.001%の▲0.065%から始まった。その後もオファーサイド・ビッドサイドともに大きな動態変化はなく、▲0.065%~▲0.063%の狭いレンジで推移した。3日積みとなる25日は一部ビッドサイドの調達意欲の強まりから前営業日比+0.002%となる▲0.061%で越週した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に▲0.060%~▲0.030%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で28日に景気先行CI指数(6月)の公表などが予定されており、海外では31日にECB議事要旨(7月)の公表、9月1日に米雇用統計(8月)などが予定されている。

<レポ>

足許GCは週初▲0.12%近辺で出合い。22日以降は▲0.15%~▲0.13%のレンジを中心に推移し、国債買入オペがオファーされた23日は一時▲0.16%近辺まで低下した。短国3mの発行があった25日は前場▲0.13%まで上昇したが、後場引けにかけて▲0.15%近辺まで低下した。

SC取引は2年438~451回債、5年149~160回債、10年350~371回債、20年180~185回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約6,300億円で、週間償還額(約9,100億円)を下回った。発行市場は、石油製品や電気機器、小売業等で大型発行が行われたが、案件自体は少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は前週末の28兆2,454億円から24日時点で28兆3,411億円と小幅に増加した。発行レートは概ね0%からプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還(約2兆1,000億円)を含み、約2兆2,500億円となっている。発行市場は、月末週で案件が多く、マーケットは活況となると思われる。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。28日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

25日の3M(1178回債)の入札は、最高落札利回り▲0.1483%(前回債▲0.1082%)、平均落札利回り▲0.1483%(前回債▲0.1154%)となった。

来週は9月1日に3Mの入札が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010